

7 保健体育

(1) 第1学年(男子)

① 分析と生徒の状況

ア 分析

1年生男子の学習状況について、定期考査や体力調査、授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ 体を動かすことが好きな生徒が多い。
- ・ 集合、整列を素早く行うためにリーダーが声掛けを行うことができる。
- ・ ラジオ体操や筋力トレーニングなどに真剣に取り組んでいる。
- ・ 体格差があり、体力の個人差も大きい。
- ・ 体力調査の結果では握力とハンドボール投げと立ち幅とびの記録が全国平均より低かった。

イ 学力や体力の状況

上記を踏まえ、1年生男子の学力や体力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 授業に積極的に取り組む生徒が多い。苦手でも楽しめる生徒が多い。
- ・ 学校外で運動をする生徒や運動部活動に熱心に取り組む生徒と普段あまり運動をしない生徒で体力差がある。

② 本校の課題

ア 学習面(生徒の課題)

- ・ 生徒各自が主体的に集合・整列することが課題である。
- ・ 話をよく聞き、ねらいを理解して、授業に取り組むことが課題である。
- ・ 見本となる動きを注意深く観察して、同じように運動を行うことが課題である。

イ 指導面(教師の課題)

- ・ 学習のねらいが理解できるような発問や板書が課題である。
- ・ 運動時に的確なアドバイスをすることが課題である。
- ・ 運動の良い見本と悪い見本を見せて説明することが課題である。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 発問や質問の時間を取り入れる。
- ・ 授業の振り返りで感想を発表させる。
- ・ 学習カードを使用する。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業開始時に内容やねらいを説明し、授業の見通しを示す。必要があればホワイトボード等にもわかりやすく記載する。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 毎日、ストレッチや筋力トレーニングを行う。

エ その他(ICT機器の活用等を含む)

- ・ 保健や体育理論の学習で大型テレビを使用する。

(2) 第1学年(女子)

① 分析と生徒の状況

ア 分析

1年生女子の学習状況について、定期考査や授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ 集合時間を守り、ランニングやラジオ体操など、集団行動に真剣に取り組もうとしている。
- ・ 仲間と競い合ったり、記録に挑戦しようとしたりする生徒はいるが、取り組みに消極的な

生徒が多い。

- ・ 令和元年度の体力測定結果では、握力では都平均を下回り、それ以外の種目では都平均を上回った。
- ・ 定期考査の平均点は63点であり、40点以下が5人いる。
- ・ 授業評価アンケートで板書の字について、「どちらかというとそう思わない」3%「そう思わない」2%であった。

イ 学力や体力の状況

上記を踏まえ、1年生女子の学力や体力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 授業に真面目に取り組む生徒が多いが、運動に対して失敗を恐れたり、自信がなかったりする生徒が多い。
- ・ 握力が都平均を下回った。
- ・ 定期考査の結果から、授業内容をよく理解している生徒が多いが、知識として引き出せていない生徒もいる。
- ・ 体育理論など座学で板書が見えづらいと感じている生徒がいる。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 話をよく聞いて、自分なりに積極的にチャレンジする。
- ・ 知識を活用し、技能のポイントを意識して取り組む。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 活動内容や技能のポイントを理解できているか様々な生徒に発言させ、確認しながら説明する。
- ・ 活動中も生徒の実態に合わせてながら、技能のポイントについて声かけをする。新たな課題があれば、全体で共有する。
- ・ 補強運動で鉄棒を行ったり、ボールをつかんだりする運動を取り入れ、握力の記録が向上するように取り組ませる。
- ・ 板書はポイントをしぼり、話の流れに合わせて大きな字で書くようにする。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 説明で発問や質問を取り入れる。
- ・ 学習カードに自分の課題と改善策を記入させる。
- ・ 友達にアドバイスをする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 流れや技能のポイントを視覚的に捉えられるようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 自分の課題に対する改善策を振り返り、成功したときの動きのイメージをしてくる。
- ・ 毎日、ストレッチや筋肉トレーニングを行う。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ 保健や体育理論の学習でデータなどを取り入れ、説明をわかりやすくしたり、全体で共有したりできるようにする。
- ・ 技能の動きの見本を映像で見せて、イメージしやすくする。
- ・ 生徒の動きを撮影して生徒が自分自身の動きを見て、課題や改善策を見付けられるようにする。

（3）第2学年（男子）

① 分析と生徒の状況

ア 分析

2年生男子の学習状況について、定期考査や体力調査、授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ 積極的に運動に取り組もうとする生徒が多い。
- ・ 集合、整列を素早く行えない状況が多い。
- ・ ラジオ体操や筋力トレーニングなど真剣に取り組んでいる。
- ・ 体格差があり、体力の個人差も大きい。
- ・ 体力調査の結果では握力、上体起こし、持久走、50m走、ハンドボール投げで全国平均を下回った。

イ 学力や体力の状況

上記を踏まえ、2年生男子の学力や体力について、以下の傾向が見られた。

- ・ 授業に積極的に取り組む生徒が多い。
- ・ 運動部に所属しているか、していないかで体力の差がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 体育係を中心に生徒主体で集合・整列・準備運動することが課題である。
- ・ 話をよく聞き、ねらいを理解して、授業に取り組むことが課題である。
- ・ 生徒同士が互いに実技を見て、アドバイスし合うことが課題である。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 学習のねらいが理解できるような発問や板書が課題である。
- ・ 準備運動を素早く行わせ、説明を簡潔に行い、運動量を確保することが課題である。
- ・ グループ学習時に、互いにアドバイスできるようにすることが課題である。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 発問や質問の時間を取り入れる。
- ・ 授業の振り返りで感想を発表させる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 黒板に本時の予定やねらいを書き込み、授業の見通しを示す。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 毎日、ストレッチや筋力トレーニングを行う。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ 保健や体育理論の学習で大型テレビを使用する。

（４）第2学年（女子）

① 分析と生徒の状況

ア 分析

2年生女子の学習状況について、定期考査や体力調査、授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ 大半の生徒は顔を上げてよく話を聞いているが、話を聞いておらず、次の行動に移れない生徒もいる。
- ・ 意識が高く、授業に早く来る生徒や体育係が積極的に準備や片付けをしている。
- ・ 令和元年度の体力測定結果では、握力、持久走では都平均を下回り、それ以外の種目では都平均を上回った。
- ・ 定期考査の平均点は約69点である。
- ・ 授業アンケートでは「質問に丁寧に答えている」に対して、「どちらかというとそう思わな

い」「そう思わない」が合わせて22%であった。

イ 学力や体力の状況

上記を踏まえ、2年生女子の学力や体力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 集中して話を聞き、自主的に行動できる生徒がいる一方で、話を聞いておらず、行動できない生徒がいる。
- ・ 授業で種目によっては、技能のポイントを意識して取り組むことができていない。
- ・ 握力、持久走が都平均を下回った。
- ・ 授業内容はおおむね理解している生徒が多い。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 顔を上げて集中し、よく話を聞く。話を聞き、教師からの質問に対して答えられるようにする。
- ・ 技能のポイントを意識して活動する。知識を活用して、自分の課題を考えたり、友達へアドバイスをしたりしながら取り組む。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 生徒が顔を上げて静かになるまで話さない。ポイントを絞って話し、生徒が質問できる時間を設定する。
- ・ 生徒が技能のポイントをいつでも振り返られるようにする。
- ・ 課題のある生徒に声かけをしていく。友達同士でアドバイスする場を設定する。
- ・ 補強運動で鉄棒を行うなど物をつかむ運動を取り入れたり、継続的に長距離を取り入れ、また、縄跳びを取り入れたりすることで、握力、持久走の記録が向上するよう取り組ませる。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 学習カードに自分の課題と改善策を記入させる。
- ・ ペアやグループをつくり、友達へのアドバイスを取り入れる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ ホワイトボードを使って流れや技能のポイントを視覚的に捉えられるようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 毎日、ストレッチや筋肉トレーニングを行う。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ 保健や体育理論の学習でデータなどを取り入れ、説明をわかりやすくしたり、全体で共有したりできるようにする。
- ・ 技能の動きの見本を映像で見せて、イメージしやすくする。
- ・ 生徒の動きを撮影して生徒が自分自身の動きを見て、課題や改善策を見付けられるようにする。

（５）第３学年（男子）

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生男子の学習状況について、定期考査や体力調査、授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ 積極的に運動を行う生徒は多いが、種目によっては消極的になる生徒もいる。
- ・ 集合や整列が遅くなることが多い。
- ・ ランニングやラジオ体操を意識をもって取り組むことができない生徒が多い。

- ・ 運動部に所属している生徒と所属していない生徒の体力差が非常に大きい。
- ・ 学習のねらいを理解して授業に取り組む生徒が増えつつある。
- ・ 競い合ったり互いに認め合ったりする意識が高まりつつある。

イ 学力や体力の状況

上記を踏まえ、3年生男子の学力や体力について、以下の傾向が見られた。

- ・ 多くの生徒が運動に親しみをもって取り組む傾向がある。
- ・ 体力調査の結果では握力、上体起こし、持久走、50m走、ハンドボール投げで全国平均を下回ったが、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳びで全国平均を上回った。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 全員でランニングやラジオ体操を揃えてより美しく行うことが課題である。
- ・ 説明をよく聞いて授業のねらいを理解してから授業に取り組むことが課題である。
- ・ 生徒同士でアドバイスをして、互いに技能を高めあうことが課題である。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 運動は即時的にアドバイスをすることが課題である。
- ・ 生徒が理解できるよう授業のねらいを簡潔に説明することが課題である。
- ・ 全体指導と個別での指導を適宜使い分ける必要がある。
- ・ 生徒主体で取り組むことができるように体育系の生徒に指示を多く出すことが課題である。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 発問や質問の時間を取り入れる。
- ・ 授業の振り返りで感想や気づいたことを発表させる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業開始時に内容やねらいを説明し、授業の見通しを示す。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 毎日、ストレッチを行う。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ 保健や体育理論の学習で大型テレビを使用する。

（6）第3学年（女子）

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生女子の学習状況について、定期考査や体力調査、授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ 大半の生徒は顔を上げてよく話を聞き、頷くなど反応している。教員の話に対して、発言するのは多数である。つぶやいたり、指名したりすると答える生徒もいる。
- ・ 役割分担はうまくでき、準備や片付けなどが素早くできる。
- ・ 活動に対して、積極的な生徒が多いが、消極的な生徒もいる。
- ・ 令和元年度の体力測定結果では、上体起こし、反復横跳び、50m走、立ち幅跳びは都平均を上回るが、握力、長座体前屈、持久走で都平均を下回る。
- ・ 定期考査の平均点は約72点であり、普段の授業についての知識は身についている。

イ 学力や体力の状況

上記を踏まえ、3年生女子の学力や体力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 授業で聞いたことについては、知識として身についている生徒が多い。
- ・ 指示が通り、理解するとすばやく動くことができる。

- ・ 知識・理解や思考・判断を実技のポイントにつなげて活かすことがあまりできていない。
- ・ 運動に対して苦手意識がある生徒は、消極的である。
- ・ 握力、長座体前屈、持久走で都平均を下回る。
- ・ 定期考査の結果から、授業内容をよく理解している生徒が多い。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 技能のポイントを意識して活動する。自分の課題を考えながら取り組む。
- ・ 友達と課題について改善点を話しながら取り組む。
- ・ たくさん練習できるように積極的に運動に取り組む。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 生徒が顔を上げて静かになるまで話さない。ポイントを絞って話し、様々な生徒に質問をする。
- ・ 生徒が技能のポイントをいつでも振り返られるようにする。
- ・ 課題のある生徒に声かけをしていく。友達同士でアドバイスできるようにする。
- ・ 補強運動で鉄棒やボールをつかむ運動を取り入れたり、毎授業で行っているストレッチを二人組で行ったり、継続的に長距離や縄跳びを取り入れたりして、握力、長座体前屈、持久走の記録が向上するよう取り組ませる。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 教員からの質問に対して受け答えをする。
- ・ 学習カードに自分の課題と改善策を記入させる。
- ・ ペアやグループをつくり、友達へのアドバイスを取り入れる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 流れや技能のポイントを視覚的に捉えられるようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 毎日、ストレッチや筋肉トレーニングを行う。

エ その他（ＩＣＴ機器の活用等を含む）

- ・ 保健や体育理論の学習でデータなどを取り入れ、説明をわかりやすくしたり、全体で共有したりできるようにする。
- ・ 技能の動きの見本を映像で見せて、イメージしやすくする。
- ・ 生徒の動きを撮影して生徒が自分自身の動きを見て、課題や改善策を見付けられるようにする。